
地下通路案内機能の提供に向けた地下マップ ・ ビーコンの活用可能性に関する検討 (机上検討)

2017/3/14

(株)NTTドコモ・(株)ヴァル研究所

提供素材（ビーコン・地下マップ）について

ビーコンについて

■ ID体系

- 東京駅についてUUIDがビーコン毎に異なっており、iOSで扱える検知数の上限が実装上課題となる。同一エリア内は1つのUUIDに統一することが望ましい

■ 設置密度

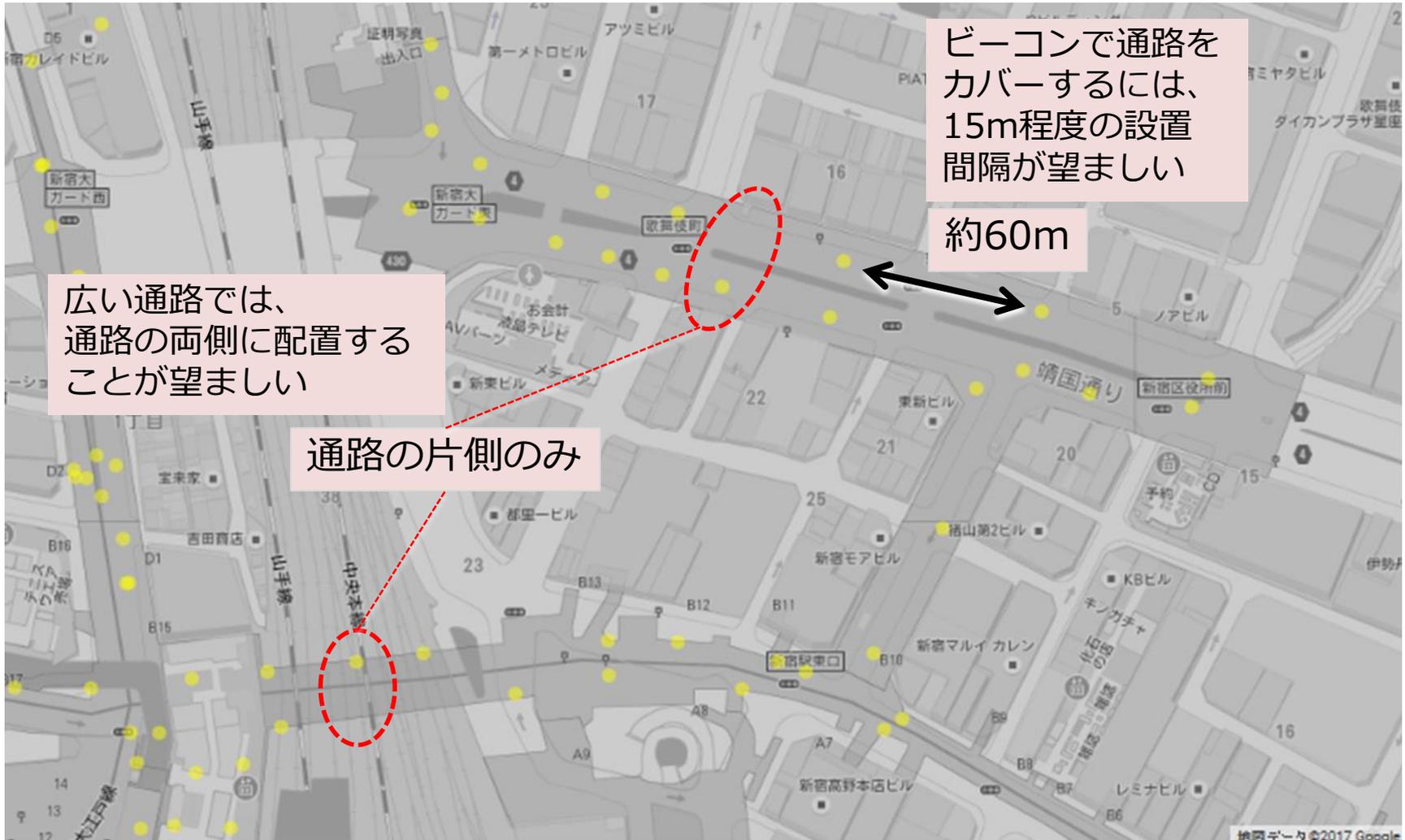
- 東京駅／新宿駅／渋谷駅等の複雑な構造の駅の場合、より高い密度で設置することが望ましい
- 通路をカバーするため、15m程度の設置間隔が望ましい（現状は広いところで50m程度）
- 広い通路では、通路の両側に設置することが望ましい（現状は片側のみのケースが存在）

■ 設置エリア

- 東京駅の八重洲口付近でビーコン設置が無い。サービス提供にあたり均等な設置が望ましい

ビーコンの設置密度について

提供を受けたビーコン（新宿駅）の位置情報を地図上にマッピング



地下マップについて

■ フォーマット

- Shape形式は利用困難
- ラスタデータまたはIllustrator形式を希望（PDF, aiファイル 等）

■ 解像度

- 今回png形式でも地図を提供いただいたが、スマートフォンで表示するには解像度が低かった

事業への適用性・改善要望等

事業への適用性・改善要望 等

- **事業化の可能性：有**
 - 乗り換え案内機能の拡張機能としてのサービス提供を想定

- **実証実験環境活用上の課題**
 - 地下マップやビーコンについて、期間限定の利用ではなく、継続的に利用可能な環境が整うことが望ましい
 - 継続的にサービスを提供する中でサービス提供上の課題を抽出し、段階的に機能改善を図ることができると考えられる

- **事業化に向けた課題**
 - ビーコンのメンテナンス（電池交換、故障対応 等）
 - 地下マップの更新（通路／出口の変更の反映、POI情報の更新 等）